

はーとめーる

第 42 号 (平成 26 年 12 月 1 日発行)

「いのちの大切さを考え、 被害者支援の理解を深める」

当センターは、犯罪被害者等が置かれている状況について社会の理解が深まる事を目的とし、犯罪被害者週間（11月25日から12月1日）にさまざまな活動をしています。今年度催したイベントに足を運んでくださった皆様に感謝し、今後の支援活動に尽力していきたいと思います。

ご遺族の声を聴く

11月15日、同志社女子大学栄光館ファウラーチャペルで岩城順子さんによる講演「犯罪被害に遭うということ」とハンドベル演奏が行われました。京都市と当センターの共催で、犯罪被害者の置かれた実情や被害者支援の必要性を広く一般の人に知ってもらうための催しでした。



岩城さんのご子息は、平成8年見知らぬ男からの一方的な暴力によって障がい者となり、3年後に亡くなりました。会場がチャペルということもあり雰囲気良く、岩城さんの穏やかなお声が会場の隅々に静かに届きました。事件から息子さんが亡くなるまでの事、その当時の各種社会的制度の不備や被害者家族の感じ方や思いが淡々と語られる中、聴く者に伝わったのは、家族間でも思いが異なること、互いの理解と協力が必要なこと、時間は解決にならないこと、そして何よりも寄り添う気持ちが大切であるということでした。そのためにはまず、関心を持ってもらうことが重要で、命の大切さ、社会の一員として、隣人として犯罪被害者を支えることの大切さが再認識できました。

ご講演に続くプログラムでは、同志社女子中学校・

高等学校ハンドベルクラブの皆さんによる素晴らしい演奏があり、心と癒しの時間となりました。

また、入り口付近で犯罪被害者週間に因む取組みのパネル展示もあり、龍谷大学付属平安高等学校の生徒さんが以前、ご遺族のお話を聴いた後の気持ちを一行詩として表現された作品などを来場者の方々が熱心に見てくださっていました。

啓発パネル展を開催

11月17日から20日まで京都市中京区の地下街「ゼスト御池」、11月21日から12月1日まで京都市役所正面玄関において、犯罪被害者週間啓発のパネル展が開催されました。

行政や警察による犯罪被害者等を支援するための施策をパネルで分かりやすく紹介し、京都府内の中学生・高校生を対象として行われた啓発事業「いのちを考える教室」の様子や、ご遺族の話を聴いた龍谷大学付属平安高等学校の生徒さんによる一行詩が展示されました。当センターも京都府の補助事業としての犯罪被害者サポートダイヤルや京都市犯罪被害者総合相談窓口としての相談や支援活動などの紹介展示をしました。





「0（ゼロ）からの風」上映 生命のメッセージ展

11月3日、京都テルサで開催された「京都ヒューマンフェスタ2014」において、映画「0（ゼロ）からの風」の上映会や「生命のメッセージ展」も同時開催されました。例年通り、当センターも主催者の一員として参加し、お手伝いしました。

今年は「生命のメッセージ展」の代表を務め、映画「0（ゼロ）からの風」の主人公のモデルになっている鈴木共子さんが京都に来られ、映画上映後にご講演されました。鈴木さんは、19歳のご子息を、無免許、飲酒運転、車検切れの暴走車にはねられて亡くされたお母様です。一般市民による初の法改正となった「危険運転致死傷罪」の新設に尽力され、アートを通していのちの尊さを伝え続けておられます。

当日は、映画を鑑賞し、鈴木さんの講演を聴き、「メッセージ展」に足を運んでくださった多くの皆さんが、メッセンジャーの声なき声に耳を傾け、理不尽にも命を喪った犠牲者の無念さや遺されたご遺族の思いを受け止めて、「いのちの重さ、尊さ」を深く感じてくださったことと思います。メッセンジャーやこの「メッセージ展」に関わった者たちが、来年もこの京都の地で再び集えることを願い、閉会となりました。



全国犯罪被害者支援フォーラム2014・秋期全国研修会に参加 香川さんが犯罪被害者支援特別栄誉章受賞される

10月3日～5日、東京にて全国被害者支援ネットワーク主催のフォーラム2014及び秋期全国研修会が開催されました。この研修会は、全国ネットワーク内の支援者の全国的な支援の質の向上を図るとともに、支援者同士の交流を深める大切な場となります。

3日のフォーラムは、「犯罪被害者支援における直接的支援について」をテーマに、第一部では、娘さんが同じ大学の男子学生からストーカー行為を受け殺害されたご遺族のご講演「ある日突然最愛の娘を奪われて～犯罪がその後にもたらすもの」をお聴きしました。第二部では、「犯罪被害者支援における裁判付添等直接的支援の課題と今後の展望」というテーマでパネルディスカッションが行われ、ご講演して下さったご遺族や検察庁、警察、支援センターの方々がご自身の体験、経験、取り組み内容をお話されました。4日、5日の研修会の全体会では、パネルディスカッション「犯罪被害者支援の回顧と展望」という被害者支援の原点ともいえる生の声を聴く事ができました。この3日間の研修会で学んだ事をみんなで共有し、質の向上に繋げていくため、昨年と同様に今年も11月月例研修会で報告会を行いました。

3日のフォーラムで、犯罪被害者支援功労者・功労団体・功労職員表彰、感謝状贈呈が行われ、ボランティア相談員1期生の香川馨さんが犯罪被害者支援特別栄誉章を受賞されました。



この特別栄誉章は、多年にわたり犯罪被害者支援活動に尽力し、抜群の功労があったと認められる方に警察庁長官及び全国被害者支援ネットワーク理事長より授与されるものです。平成24年に受賞された宮井久美子前事務局長に続き、京都からは2人目の受賞となりました。香川さんは、センター設立当初から今日に至るまでの永きにわたり、誠実に被害者やご遺族等に対する支援を続けてこられた他、電話や面接、時にはご自宅に足を運び、悩み苦しむ被害者等の心の奥底にある怒りや悲しみを長時間に及んで親身に聴き、サポートを行って下さいました。センター内外から高い信頼を得ておられる方でこのたびの受賞をたくさんの方々が喜んでおります。



大谷實代表理事 警察協力章受ける

7月、犯罪被害者支援業務に多大な協力があつたとして大谷代表理事が警察庁長官より警察協力章を受けました。多年にわたり犯罪被害者支援活動に尽力し、犯罪被害給付制度の導入に貢献するとともに、犯罪被害救援基金評議員や京都犯罪被害者支援センター代表理事を務めていることによるものです。

大谷代表理事の築いた道をしっかりと歩み、今後も被害者支援活動に励みたいと思います。

北部地域の事前研修スタート

北部拠点の支援を担う支援者養成のためのボランティア募集をし、応募者8人(女性5人、男性3人)が、7月4日から8月20日までの6日間、合計12講座を受講されました。

研修プログラムは毎年実施する京都市内での養成講座「事前研修」と同じ内容で、舞鶴市、宮津市で行いました。受講者は、引き続き研修生として、10月から継続研修に入り、11月には京都市内の当センターにおいて事務局や電話ブースを見学した後、ボランティア経験者との交流を行いました。

北部は地域が広く交通の便が必ずしも良いとは言えない中で、熱心に受講していただいています。



全国被害者支援ネットワーク

平成26年度

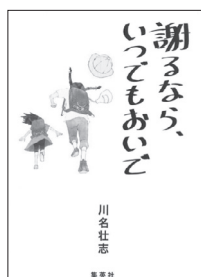
質の向上研修上半期近畿ブロック

8月2日、3日、和歌山マリーナシティにて質の向上研修上半期近畿ブロックが開催されました。この研修会は、支援員、相談員の均質な向上を図り、全国どのセンターにおいても同レベルの支援ができる体制の構築を目指すために行われます。

2日間の研修で、法制度や支援者の自己理解、リスニング技術、直接支援の実際、事例検討への参加等、多くの事を学びました。講義やグループワークを通して、近畿2府4県の支援センターの方々と頭・体・心を使って一緒に学び、交流する事ができました。参加した一人ひとりが学んだ事、経験した事を今後の支援に繋げていきたいと思います。

本の紹介

「謝るなら、いつでもおいで」



集英社・川名壮志著・
328ページ・四六判・
本体1500円＋税

2004年6月に長崎県佐世保市の小学校で起きた、6年女児による同級生刺殺事件。当時、被害者の父が上司だった新聞記者が、取材者として、また「遺族の隣人」として過ごした3か月半を振り返り、まとめた。

本書は、2部構成。第1部では「1本の電話」

で始まったその日からのことを克明に記録した。特に、少年法や少年審判についての取材は綿密で、記述も詳細かつ具体的。児童自立支援施設には「加害者」という視点が存在せず、社会が十分に育てきれなかった「被害者」にまともめられるという現状を指摘し、こうしたことが少年事件の被害者を置き去りにするのではないかと懸念する。

第2部では、被害者の父、加害者の父、被害者の兄の3人をとりあげた。答えが見つからないであろう、それぞれの「なぜ」。記された言葉からは3人の苦悩がうかがえるが、それだけに被害者の兄が語る「普通の生活」の大切さが、重く伝わる。(さ)



京都拘置所より感謝状

7月、京都拘置所より当センターが拘置所の被収容者の矯正教育、教化指導の一環として講話を続けてきたことに対して感謝状を頂きました。講話では、ボランティア相談員が被害者の心情などを話します。この

ボランティア相談員の永年の貢献が被収容者の心を動かし、犯罪を減らし、被害に遭う人が減ることに繋がるものと思います。被害者支援の一つの形として、今後も活動が続けていきたいと思っています。

ボランティアの声

拘置所での講話について

7年前に京都拘置所での仮出所前の受刑者に対する講話依頼を受け、早いもので今まで百人余りの受刑者に話をしました。私は被害者支援の為にボランティア活動で働いておりましたのに加害者に話をする意味に疑問を感じ、最初は違和感を持ちました。さて、講話内容は、犯罪被害者の心情や困っている実情を「電話相談」「裁判の代理傍聴」等々具体的事例を交え伝えてきましたが、次第にこの話では十分といえないことが、相手の態度を見ているうちにわかってきました。そこで講話の最後には受刑者の家族についての話をしています。「あなたが自分の人生の中で罰を受けるのは勝手である。しかし肉親にどれだけ迷惑をかけているか、例えば息子や娘が結婚する場合、あなたの犯罪で子供たちの人生を狂わせるのは親族に対しての大きな罪である。再び犯罪を軽い気持ちで起こしてしまうのは、被害者の人生にも大きな影を落とし自分の家族にも大きなハンディを与える。自分の欲望に負けず思いとどまる強さを持ってほしい」と、感情を込めて話しますと受刑者の中には涙を浮かべる人もありました。そうした人々の何人かは再び犯罪を起こさない事を期待しながら何時も拘置所を後にしております。

(K. N)

電話相談とロールプレイ

電話の前に座り電話相談に備えます。相談員になって今年で3年になります。まだまだ駆け出しの私です。普段は地域の高齢者の見守りと話し相手などを行っています。

電話相談の担当に入る時、普段の生活から相談に備えて気持ちを切り換え、寄り添う態勢にします。相談では相手の混乱した気持ちを感じ取り、怒りの感情を受け止め、言葉がけに気を使い、時にはそっと耳を傾けてじっくりと聴くこともあります。また、犯罪被害に遭った場合の電話相談では、いつ、何処で、何処の警察署に届けたか、怪我の具合、現在の状況など詳しく聴かなければなりません。激しい怒りや気が動転して話が出来ない被害者に被害の内容など聴きたいのですが落ち着くのを待ちます。

どう対応したらいいのか、被害者の気持ち、相談員の対応など学び、役立てていけるのがロールプレイだと思います。ロールプレイを行う事は相談内容の聴き方、対応、相談場面の疑似体験ができるなど私のような経験の浅い者にとっては非常に勉強になります。また冷静な対応、判断することに役立っています。新たな気づきにも繋がっています。

今日も電話音が鳴るのを待っています。(M. T)

「ひとりで悩まないで」

当センターのチラシを掲示

広報啓発事業の初めての試みとして、7月末から京都府内全域の大手コンビニエンスストア約600店のトイレに当センターのチラシを掲示してもらいました。掲示から数日後に、早速チラシを見た方からの相談電話がかかってきました。

当センターの存在を広く皆様に知ってもらい、早く相談してもらうことが、被害直後からの支援や回復につながります。チラシ掲示にご協力いただける方がございましたら、事務局までご連絡ください。





犯罪被害者支援活動を支援する自動販売機設置のお願い

舞鶴市内に新たに2台の自動販売機を設置していただきました。

支援の輪を広げるため、支援自動販売機の設置をしてくださる方（個人・団体）を募っています。ぜひとも、ご協力をお願いします。

京都犯罪被害者支援センターの活動を支える資金

- 犯罪被害者等への支援
- 広報啓発活動
- 相談員の養成及び研修
- 調査研修活動
- 自助組織への支援

売上金の一部



ご支援をいただいている設置者

株式会社霞月、株式会社サギタリウス企画（京都産業大学内）、株式会社藤田産業、株式会社ミラノ工務店、ブリヂストンタイヤ北京都販売株式会社、吉忠株式会社、吉村建設工業株式会社

府内の設置状況（平成26年10月末現在 17ヵ所19台）

温かいご支援ありがとうございます

会費及び寄付を頂戴した方々を謹んでご報告申し上げます。なお、記載漏れ等がありましたら、お手数ですが事務局までご一報いただきますようお願いいたします。また、お名前の記載を望まれない方は、お申し出ください。

会費納入者 <平成26年6月1日～10月31日>

（順不同・敬称略）

【正会員】

18名

【個人賛助会員】

52名

【団体賛助会員】

10名

【法人賛助会員】

6名

寄付者

25名



センター活動報告(平成26年6月1日~平成26年10月31日)

研 修 月例研修会(6/7、6/9、7/5、8/9、9/13、10/18)
 16期生期別研修会(6/7、7/5、8/9、9/13)
 15期生ロールプレイ研修(6/7)
 犯罪被害者等支援施策市町村担当者研修会(6/10)
 直接的支援実地研修(6/16~6/20)
 北部事前研修会(7/4、7/15、7/24、8/1、8/11、8/20)
 全国被害者支援ネットワーク質の向上研修上半期近畿
 ブロック(8/2~3)
 全国被害者支援ネットワーク課題研修(上級)(9/8~
 10)
 北部月例研修会(10/1)
 全国犯罪被害者支援フォーラム2014、秋期全国研修会
 (10/3~5)

広 報 京都府警察音楽隊コンサートにて街頭活動(6/1、
 6/29、7/9、8/20、9/17、10/15、10/24)
 ホームページ更新(9/6、10/11)
 四条河原町にて街頭活動(10/3)
 会報紙編集会議(10/8)

講師派遣 京都家庭裁判所にて講話(6/5、9/4、10/2)
 京都拘置所にて講話(6/19、7/1、7/17、7/31、9/1、
 9/11、9/26、10/10)
 京都刑務所にて講話(6/27)
 京都府警察本部にて講話(7/2)

佛教大学にて講話(7/11)
 京都医療少年院にて講話(7/30)
 京都地方検察庁司法修習生研修講師(9/29)

会 議 京都府相談・支援ネットワーク「京のいのち支え隊」
 総会(6/6)
 運営委員会(6/11、7/10、8/28、9/19、10/17)
 京都府暴力追放運動推進センター定時評議員会(6/12)
 性被害者ワンストップ相談支援センター(仮称)設置
 検討会(6/14、7/10、8/7、9/4)
 人づくり21世紀委員会幹事会(6/16)
 京都府犯罪被害者支援連絡協議会総会(6/20)
 府民相談相互連絡ネットワーク会議(7/7)
 女性のための相談ネットワーク会議(7/8)
 全国被害者支援ネットワーク事務局長会議(7/26、
 10/21)
 「京都府犯罪のない安心・安全なまちづくり計画」及び
 「犯罪件数アンダー3万件アクションプラン(仮称)」
 検討委員会(7/29、8/29、10/29)
 理事会(9/26)
 城陽犯罪被害者支援連絡協議会(10/10)

その他 会計コンサルティング(6/16、7/7、8/29、9/16、10/22)
 定時社員総会、表彰式、認定式(6/21)
 willの会(10/11)

第15回

犯罪被害者支援京都フォーラムを
京都市とともに開催

日 時: 平成27年2月7日(土)
 13:00~16:30

場 所: 同志社大学 寒梅館 ハーディーホール

内 容:
 テーマ「社会全体で被害者を支えるために」
 基調講演
 演題:「被害者支援の現状と今後の課題」
 講師: 安田貴彦氏(内閣府大臣官房審議官・
 犯罪被害者等施策推進室長)
 パネルディスカッション
 テーマ:「子どもを被害者にしないために」
 コーディネーター: 石附 敦氏
 (京都犯罪被害者支援センター理事)
 パネリスト: 安保 千秋氏(弁護士)
 桶谷 守氏(大学院教授)
 高松由美子氏(遺族)

会員になってください

一緒にセンターを支えてくださる会員を募っています。

正 会 員	年会費 5,000 円	
賛助会員	個人会員年会費	1 □ 3,000 円
	法人以外の団体年会費	1 □ 3,000 円
	法人会員年会費	1 □ 30,000 円

ご寄付をお願いします

金額や口数に関係なく随時受け付けています。

振 込 先

振込口座: 京都銀行 府庁前支店(普通) 3939038
 口座名義: 公益社団法人京都犯罪被害者支援センター
 代表理事 大谷 貴(オオヤミノル)

郵便振替口座番号: 00980-0-128119
 加入者名: 公益社団法人京都犯罪被害者支援センター

当センターへの賛助会員の会費・寄付は、税制上の優遇
 措置が受けられます。
 お問合せは事務局までご連絡ください。

編集後記

誰にでも「そのあと」があります。被害に遭われた方やそのご
 家族が、勇気を出して前へ踏み出す時にも、立ち止まる時にひ
 とりひとりの心の中にある「そのあと」。

これからもこのセンターに関わる皆が一つになり、支援を必要と
 されている方々の「そのあと」を支えていきたいと思ひます。

最後になりましたが、7月から一人の事務局員が加わりました。
 新たな事務局として努力していきます。よろしくお願い致します。

ホームページもご覧下さい

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kvsc7830/>

発行者 公益社団法人京都犯罪被害者支援センター
 大谷 貴
 事務局 TEL & FAX 075-415-3008
 E-mail kvsc7830@mbox.kyoto-inet.or.jp
 印刷 為国印刷株式会社

お 願 い: 住所変更された方は、お手数ですが事務局までご一報下さいますようお願い致します。